

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展

しまったては いけなひ 記憶

— 救護の場所を求めて —

期 間 平成21年4月1日(水)～平成22年3月31日(水)

展示会場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー

時 間 3月～11月 8:30～18:00 (8月は～19:00)
12月～2月 8:30～17:00

入場無料

一発の原子爆弾により、広島市は一瞬にして廃墟と化し、多くの人々が死傷しました。

しかし、多くの人は何が起こったのか分からず避難しました。

薬も食糧もなく避難する多くの人々、焼け残った建物や
周辺の施設には被災者を救うための救護所が設置されます。

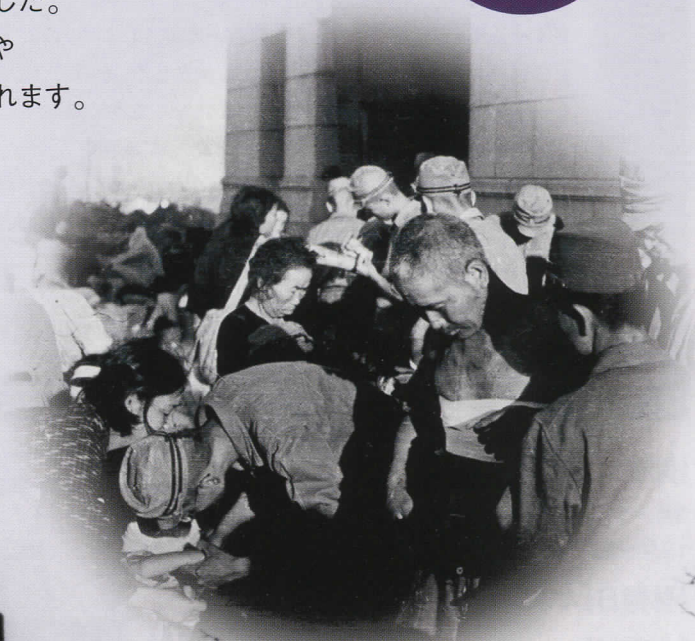
そこには治療してもらうため、あるいは食糧を求めて
被災者が集まりました。

救護所は噂を聞いて避難する人や

動くことができず大八車やトラックで運ばれて来る人、
さらには被災した家族を探し求める人であふれました。

こうした建物や施設の様子を紹介することにより、
被爆の実相を伝えます。

被爆者の「ところ」と「ことば」にふれてください。





広島陸軍糧食支廠(大西比呂志さんの描いた絵)

数センチも離れていない隣りの小父さんが「うーん・うーん」といっている声もそのうち無くなり、振り向けば物いわぬ一個の物体となってしまった。見ると裸の胸や腕が割れて、そこに一センチくらい白い蛆虫が無数にむらがってうごめいている。時間の経過とともに、ここどこで何人もの人が息を引きとっていく。

寝ているのか起きているのか判らぬまま一夜が明けるのが早く、早朝から数名の陸軍の兵士が全裸半裸の遺体を次々と運動場に運び出していく。

外に出て見ると、運動場のニヶ所に直径10メートル近い穴が掘られて、次々と遺体が投げ込まれている。当時、松の根から採取した軍の燃料となった松根油の入ったドラム缶を、兵士が二人横にかたむけて穴の中の遺体にそそいでいる。やがてたいまつのような火種をかかげて点火がずくずとくすぶりながら黒煙があがり続けていく。白昼炎天の下で急場の火葬場となるさまをただ呆然と眺めているばかりであった。

大西比呂志さんの体験記より

市役所の裏にはひょうたん池という池がありました。周囲は火災が激しく、炎と熱を避けて人はどんどんこの池に入って行きました。火の粉が飛んでくるので、池の真ん中の細い橋の下は人でいっぱいでした。母は、子どもの私だけでも橋の下に入れてくださいとお願いしましたが、皆自分のことしか考えられないのでしょうか、入れてもらえませんでした。そのため、母は橋の一番近くに私を入れ、自分はその外側へ向かい合うよう入りました。そのとき、たくさん舞い上がっていたトタン板が落ちてきて母の頭を切り、ひどく出血しました。通りかかった兵隊さんが、落ちてくる火の粉を消さなければ池が火の海になると言われましたが、母は頭の傷を手で押さえていて消すことができません。私は母に「自分たちの周りに飛んでくる火の粉だけは消してえね」と言われ、一生懸命、落ちてくる火の粉を素手で叩(たた)いて消しました。私はそれがそんなに熱かったという記憶はありませんが、母にとっては、まだ幼子の私が、もみじのような小さな手で二人の周りの火の粉を消しているということが、とてもつらかったようです。そのときのことは、母の原爆の記憶の中で最もつらかったことのように、いつも泣きながら話していました。

松井美津江さんの体験記より



広島市役所

【開館時間】

3月～11月……8:30～18:00 (8月は～19:00)

12月～2月……8:30～17:00

【休館日】年末年始(12月29日～1月1日)

【入館料】無料

【交通案内】

JR広島駅(南口)から(約20分)

- ・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
- ・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通り」下車
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車

【お問い合わせ先】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273 <http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者の氏名・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影をお寄せ下さい。ご遺族の皆様のご協力をお願いいたします。